

第4次武蔵野市民地域福祉活動計画策定委員会（第4回）会議要録

- 1 日 時 平成30年10月30日（火）19時00分から21時26分まで
- 2 場 所 武蔵野市役所412会議室
- 3 出席委員 宇田川、大屋、熊田、合原、酒井、田中、千種、中西、花俣、深田、
本多、森安、矢島、蓬田、綿貫
- 4 欠席委員 熊谷 (敬称略)
- 5 事務局 渡部常務理事、森事務局長、ほか事務局職員
- 6 傍聴者 2名
- 7 議 事

(1) 開 会

(2) 委員長挨拶

【委員長】 皆さん、こんばんは。限られた時間ですので、本日もグループワーク形式で、忌憚のない議論をお願いしたいと思います。それでは、よろしくお願いします。

(3) 議 事

①第3回策定委員会 会議要録確認

資料1・資料2に基づき事務局より説明を行った。特に委員からの質問はなかった。（第2回策定委員会会議要録については、委員からの校正が特になかったため、配付済みの案をもって確定とする）

②地域懇談会から見える武蔵野市の地域課題（追記）

資料3に基づき事務局より説明を行った。特に委員からの質問はなかった。

③グループワーク：策定委員会及び地域懇談会の意見を踏まえた論点

資料4に基づき事務局より説明を行った。特に委員からの質問はなかった。

【委員長】 6つのカテゴリーのうち、それぞれの一番右側の論点についてご意見をいただき、取りまとめていきたいと思っております。よろしくお願いします。

(グループワークを実施)

【委員長】 それでは、時間ですので、一度議論を終わらせていただいて、発表に入りたいと思っております。Aグループからお願いします。

【事務局】 Aグループです。1番目の「地域活動の担い手を増やす」と、2番目の「地域活動情報の発信」について話し合いました。「新たな担い手について」の論点では、テーマ別に絞るときっかけづくりとしては良いものの、大勢の人を集めることはできないのではないかと。そこで、幅広いテーマでイベントを行い、それをきっかけにつなぎとめる。そこで少なくとも連絡先を交換して、継続してイベント等へ参加してもらえるように、情報をくまなく発信する取り組みが必要ではないかというご意見をいただきました。

「活動のきっかけについて」では、福祉というテーマで呼びかけると、かたいイメージがあるということで、福祉と福祉以外のテーマを掛け合わせたもので、きっかけづくりを行ってはどうかという意見がありました。例えば、福祉とお酒等の飲食関係とか、一見すると福祉とはかけ離れたところもあるけれども、商店会等と連携して呼びかけることができれば、興味を持ってもらえるきっかけになるのではないかとご意見をいただきました。また、できる限り継続性のある関わりをした方が良いので、月1回とか定期的な実施が望ましい。初めは参加者が少なくても、それを根気強くやることで、結果的に社協がきっかけとして派生していく、来てもらった人同士の横のつながりでグループができるとか、波状効果が生まれるきっかけを作ってはどうかという意見をいただきました。

「どのような対象をイメージして情報を発信するか」では、市民社協としてはフェイスブック等を活用してはいるものの、実際に興味を持ってもらって検索されないと情報が伝わらない。ですから、興味を持ってもらうきっかけとしても、紙媒体は欠かせないのではないかと、たとえ捨てられてしまったとしても、定期的にやってみることが大切ではないかというご意見をいただきました。

【事務局】 紙媒体もそうですけれども、人脈やネットワークが一番の鍵になる。そこをどう強めるかが大事という意見もありました。

あとは、アイデアをたくさん出して、思いついたことをとにかくやってみる。魅力がないから人が集まらないということは、逆に言えば「おもしろい」「楽しい」が参加のきっかけになるとも考えられるので、先ほどもあったように、たとえ初めは人が来なくても続けてみる。様々なアイデアを試して、行って見て、参加してくださった方や周りの方からもアイデアをもらって、そこから広

げていくことで人が増えていくのではないかという意見がありました。

【委員長】 ありがとうございます。続いてBグループお願いします。

【委員】 Bグループでは3番の「地域の福祉活動を支える」と4番の「個人の困りごとや希望を支える仕組みづくり」が議題でしたが、主に3番の話が中心になりました。

まず1点目ですが、地域社協の強化という観点で、現在は地域専任担当職員の方が地域社協を支えている現状を考えると、その仕組みを強化することが必要ではないかという話が出ました。まずは人数を増やすべきではないかという話も出たものの、財源等の様々な問題もありますので、例えば1圏域あたり1人配置されている職員を2人にしてはどうか。1つの圏域を2人で担当して、例えば、1人が体調が悪いとか、他の仕事が入っているときにもう1人が入るといような、複数担当制にしてはどうかという意見が出ました。

また、機能については、中立的なコーディネーターという話が出ました。例えば武蔵野市では、生活支援コーディネーターやボランティアコーディネーター、認知症コーディネーターですとか、様々な役割があります。地域専任担当職員としては、そういった既存のコーディネーターにつなぐことも役割の一つではないかという話が出ました。さらに言うと、これだけコーディネーターがあるのであれば、あえて武蔵野市では地域福祉コーディネーターと呼ばなくても良いのではないか。コーディネーターという言葉を使わずにその役割を説明することも考えられるのではないかという話が出ました。

2点目ですが、武蔵野市の中では、地域社協、福祉の会が地域福祉の中で非常に大きな役割を果たしているわけですが、一方で、コミセンの存在も大きい。このコミセンと福祉の会の協働を念頭に置いて進めていく必要があるという話が出ました。まさに福祉の会とコミセンは地域福祉の両輪だということです。既にコミセンによっては福祉の会の事務所的な機能があるところもありますが、全てのコミセンで統一的に進めるのは難しいし、する必要もない。しかし、実際にこんないいことができるんだったら、うちの地域でもやってみたいという声が広がれば、自然とコミセンと福祉の会の協働は進むのではないかという意見がありました。

3点目は、市民社協の仕事が多過ぎるのではないかということ。社協が何を

やっているかがわかりにくい。それは、様々な事業を行っているからだという意見が出ました。その中で、今後、地域専任担当職員ですとか地域福祉コーディネーターを強化していくためには、事業の原点というか、何のために事業を始めたのかを検討しながら、役割を終えたものは見直すことも必要で、地域に対する支援に集中できるような事業体制にすることも、ひとつの方法ではないかという話が出ました。

さらに、市民社協事務局のレイアウトについては、職員が背中を向いていて暗い感じがするとか、話がしづらい感じがするので、相談しやすいような空間づくりも必要ではないかという話も出ました。

それから、このグループの一部の委員の方々を「スーパー市民」と呼ぶ話もありましたが、その「スーパー市民」と同じ役割を一般の市民が担うことは難しい。なかなかまねをすることはできないという意味で、その「スーパー市民」の方を基準にして考えることはできないのではないかという意見が出ました。ですので、一般市民の方々をどう巻き込むかがポイントですし、一方で、この「スーパー市民」を今後どのように育てていくかも重要。地域福祉コーディネーターには、そのような視点も求められるのではないかという話がありました。

最後に「個人を支える仕組みづくり」に関連して、住民主体の相談をやってみてはどうかという話がありました。例えばコミセンと福祉の会の協働によって、住民が主体となって地域の困りごとを受ける機能をつくることも考えられます。全ての地域社協で一律に取り組めることではありませんが、できるところから始めてみてはどうかという話がありました。

【委員長】 ありがとうございます。それでは、Cグループお願いします。

【事務局】 Cグループでは、5の「居場所づくり」と、6の「ご近所同士のつながりづくり」の話をしました。まず、「居場所づくり」ですが、「どのように場所を確保するか」というところで、新しい場所というよりも、既存の店舗やテニマリオンハウスをもう少し柔軟に活用できないかという話が出ました。今、コミセンを居場所として活用しているところもありますが、コミセンによって優先利用等のルールは異なります。そこで、様々な方が利用しやすいように工夫できないかという意見が出ていました。

続いて2番目の論点ですが、社協としては居場所をどうしていきたいのかという話がありました。社協としては特定のテーマに沿った集いも大切と考える一方で、何らかのニーズを把握できるような場所、総合相談窓口とか、第3次活動計画にも記載されたような居場所について期待したいという話をしました。このことから、課題を把握するところ、適切な場所に課題をつなげられる機能もあるという認識を持って居場所を運営される方を「キーマン」と呼んでいたのですが、そのような方を増やすことも必要になるのではないかという話がありました。

続いて6番、「ご近所同士のつながりづくり」では、防災や災害は、年齢、男女を問わずに、あらゆる人に関心を持たれるキーワードではないかという話が出ました。どうして多くの人の関心を惹くのかということ、いざというとき、困ったときに、顔見知りがある周りのいることの安心感なのではないかと。そして、日頃からのつながりづくりが必要だということを、多くの人に気づいてもらえるきっかけになるのではないかという話が出ました。

続いてマンションのところですが、市内でも大きなマンションが増えています。その建設の段階から働きかけをしていくということ。管理会社への説明や、住民説明会等に社協職員が出席して、地域活動を紹介するとか、話をする機会を設ける必要があるのではないかという話がありました。あとは、関係を持ちたくないからマンションに住んでいる人もいるという論点ですが、マンションの中では、既に一定のコミュニティがあるのではないかという話が出ました。特に子育て世代の方は、世代同士で交流があるけれども、それ以外では、交流が少ない可能性もある。一定のコミュニティはあるけれども、マンションと地域との交流が少ない。だから、地域の福祉の担い手にはつながっていかないということで、マンションに対する地域からの働きかけも必要ではないかという話が出ました。

【委員長】 どうもありがとうございました。

④総括・全体討論

【委員長】 グループ毎にいろいろなお話をいただきました。これをもとに、本日の論点について、全体的に委員の意見をいただきながらまとめたいと思います。それで

は副委員長、よろしく願いいたします。

【副委員長】 今後は、本日の各グループの意見をベースに第4次地域福祉活動計画を作ることとなります。非常に重要なキーワードも出していただいていますので、改めてこの委員会としての合意や確認をとりたいと思います。今すぐ出ないということであれば、後日意見を出していただくことにしたいと思います。事務局としてはいつまでの提出がよろしいでしょうか。

【事務局】 11月9日までをお願いします。

【副委員長】 では、11月9日まで事務局へ意見をお寄せください。それでは、まず1番目の「地域活動の担い手を増やす」ですが、いかがでしょうか。

【委員】 地域福祉ファシリテーター養成講座は、3市合同で実施しているということですが、それぞれの市で地域性が異なるため、3市合同ではどうしても広く浅いものになってしまう。できれば武蔵野市独自で、ファシリテーター養成講座のようなもの、要するに武蔵野市に合った、先ほどのような「スーパー市民」を育てるものを実施してはどうでしょうか。

それから、福祉はかたいため、福祉とは別のテーマを掛け合わせるという意見については反対です。福祉は私たち市民にとって基本的なものであって、健康であれば関係ないという話ではないと思います。別のテーマと掛け合わせると本来の目的からずれる可能性があります。市民社協であれば、たとえ人数が少なくても、人が集まらなかったとしても、継続して実施していくべきだと思います。楽しい、面白い、お得になるということが、お酒が飲めるからお得ではなくて、今後自分に必要になるかもしれない福祉の情報を得られるという意味でのお得、それを見据えていくべきだと思います。

【委員】 今の私達の何が問題かという、活動に魅力がないことだと思います。要するに、魅力があれば人は集まるし、活動は活発化すると思う。この原点をどう考えるかですね。これを整理しないと問題は進まない。

それから、地域福祉ファシリテーターの問題ですが、私は3市合同で良いと思います。今の武蔵野市になぜ魅力がないかと考える時に、武蔵野市の中だけで議論していることが多いのではないかと思います。私は今、ファシリテーター養成講座に通っていますが、他市の課題や取り組みを知ることも大事だと思います。必ずしも講座という場でなくてもよいかもしれませんが、今の形も残

していくべきだろうと。これとは別に武蔵野市独自で行っても良いとも思いますが、やはり外の知恵を借りて、魅力がありそうなものをどんどんピックアップしなくてはいけないと思います。

それから、活動の魅力については、必ずしも食べ物や酒が必要だという話ではなくて、自分達や生活に役に立つかどうかだと思います。そのように思われていないというところに問題があるのではないのでしょうか。

【副委員長】 地域福祉ファシリテータ養成講座は、長年にわたって3市で行われているものですので、一方的に離脱するのも厳しい面があると思います。一方で、武蔵野市独自の取り組みも必要だと思いますので、3市合同で行ってきたものを大切にしながらも、武蔵野市の独自性を検討することが重要ではないのでしょうか。

また、福祉はかたいイメージがあるという話について、活動自体の魅力をどう引き出すかということについては、これまでの意見に共通性があると思います。活動の魅力をどう高めるかについては、さらに議論が必要ですが、従来の活動をそのまま継続すれば良いということではない点については共通性があると思います。

【委員】 しっかりと活動を褒めることも重要だと思います。それが魅力にもつながるし、もしかしたらその魅力に気がついていないだけかもしれない。例えば武蔵野市では、市内で先進的な取り組みをしている福祉関係事業者を紹介して、その審査等を行う「ケアリンピック武蔵野」という事業を始めました。そこには、市民の共助の取り組みであるテンミリオンハウスも参加され、優秀賞をとったこともありましたので、地域の活動について、このような先進的な取り組みがあるということをしっかりと市民に伝えていくことが必要ではないかと思います。

【委員】 新たな担い手ですが、きっかけになるのは、やっぱり友達ですね。その友達が本当に福祉のことを理解してくれていて、ぜひ手伝ってほしいと言えば、手伝ってくれる人はいるんだろうと思います。ただし、どうしても同世代がつながりやすいので、若い世代の人にどうアプローチするか、これが難しいと思っています。あくまでもきっかけとして、たまたま居酒屋で隣に座った人で、話しているうちに、手伝ってもらえるようになる人もいます。魅力がなければ絶対に誰も来ないと思うんですね。自分は楽しいという話をしなければ誰も

応援してくれない。その辺をどういう形で表したらよいのかという思いはあります。

【副委員長】 ありがとうございます。それでは、2つ目の「情報の発信」はいかがでしょうか。

【委員】 子どもから高齢者、外国籍の人であったり、障がいのある人も地域の中にはいます。情報発信については伝えようとする相手への配慮も必要ではないでしょうか。例えば点字とか、障がいのある人たちに対する情報発信の方法もある。災害時のこともふまえると、留意する必要があるのではないかと思います。

【副委員長】 発信する手段の話が中心になっていますが、発信の対象のことも念頭に置きながら、検討していく必要があるということですね。

それでは3番目、「地域の福祉活動を支える」ですが、いかがでしょうか

【委員】 「スーパー市民」とはどのようなものでしょうか。

【委員】 具体的な定義があるわけではありませんが、10年、20年単位の長期間にわたって、武蔵野市の地域福祉を支えてくださっている市民の方々を念頭に話をしました。このような「スーパー市民」の存在が武蔵野市を支えていただいているけれども、一方で、全ての市民が「スーパー市民」を目指すのでは、あまりにもハードルが高い。他の市民に影響を与える存在としてはもちろん重要ですが、全市民にそれを求めるのも厳しいのではないかと思いますという話をしました。

【委員】 例えば、市民が参加する講座のような機会で「スーパー市民」の方に登壇していただいて、これまでの活動を伝えていただくような取り組みも大事なことだと思います。これまでの活動を検証するというか、評価するということにもつながっていくのではないのでしょうか。

【委員】 「スーパー市民」というとハードルが高いですが、例えば若い人が「スーパー市民」になるためにどのような働きかけが必要かを考えた場合、おそらく武蔵野市のことが好きな人なんだと思うんですね。では、どのようにして好きになるのか、自分の事として考えてもらえるのかということとは、とても大事な要素ではないのでしょうか。

【委員】 「スーパー市民」を否定するつもりはありませんが、計画に組み込むことでもないのかなと思います。この計画では市民の誰もができることを前提にしないといけないのではないのでしょうか。当然「スーパー市民」が悪いわけではな

く、それは活動を継続されてきたことによる一つの成果だと思えますが、一方でそれが見えたなら引いてしまう人もいると思えます。計画とは違う形で評価をしていくべきではないでしょうか。

それから地域福祉コーディネーターについて、私の理解が不足している部分もありますが、個人の感覚としてはあまり計画に記載したくないテーマです。当事者それぞれの思いとか気持ちを伝えていくのは、やはり当事者同士が直接話し合っていくのが一番。それをコーディネートするといっても、何か中途半端な理解になってしまって、できないのではないのでしょうか。制度上の必要性についてはよくわかりませんが、あまり機能しないんじゃないか、組織を複雑化するだけなんじゃないかという気がします。

【副委員長】 何らかの形で地域の活動をサポートする人は必要なんだろうと思えます。ただし、問題を解決する主体として、地域福祉コーディネーター等を位置づけるのではなく、何か解決をしようとしている人の背中をちょっと押したり、応援したり、情報提供する人はいてもいいんじゃないかというのが私の意見ですが、いかがでしょうか。

【委員】 地域福祉コーディネーターについては、それぞれが自分なりの解釈をしていると思えます。また時間をとって、それぞれの解釈の話し合いも必要ではないでしょうか。

【委員】 市内には名前に「コーディネーター」がつく役割がたくさんあります。でも、制度の狭間の問題を考えたときに、やっぱり地域福祉コーディネーターのような形で、市民社協がやるべき役割が絶対あると思えます。その部分の整理というか、どう関わるかということは、配置人数の問題も含めて議論してほしいと思えます。

【副委員長】 ありがとうございます。それでは、4番目、「個人の困りごとや希望を支える仕組みづくり」です。いかがでしょうか。

【副委員長】 それでは、特にないようですので、続いて5番目、「居場所（人がつながる場）づくり」です。いかがでしょうか。

【委員】 コミセンとテンミリオンハウスが併記されていますが、コミュニティセンターは町会がない武蔵野市にとって、それに代わる多様な市民主体の場所です。一方で、テンミリオンハウスは高齢者を対象とする施設です。テンミリオンハ

ウスを広く、全ての市民の居場所と解釈してしまうと、本来利用すべき人達が利用できなくなる危険性があるのではないのでしょうか。

【委員】 基本的にはテンミリオンハウスは明確な対象を設定している場所ですので、コミセンと同じような活用はできないと思います。では、居場所として活用できる場所が、コミセン以外にあるのかということが議論になりますが、基本的にはコミセンなのではないかという気がします。

【委員】 私はテンミリオンハウスの運営にも関わっていますが、本当は地域社協の方が活動できる場として開放したいと思っても、テンミリオンハウスは高齢者対象の施設という位置づけですから、なかなかその部分の融通がききません。テンミリオンハウスは、共助の施設でもありますし、制度ができて20年が経過しています。市内の環境も変化する中で、もう少し幅広く捉え直してもいいのではないかと思っています。必ずしも市民全員の居場所という位置づけでなくても良いのですが、地域社協であったり、地域の団体との協働のもとに、もう少し開かれた場にとできると良いのではないのでしょうか。

【委員】 子育て世代の方と高齢者の方が一緒に利用して世代間交流が行われているテンミリオンハウスもあり、対象者のことについて否定するわけではありません。ただし、ここでは地域の中に開かれ、様々な人達が自由に参加できるような場所という意味で議論されていると思いますので、テンミリオンハウスの原則を考えると違うのではないのでしょうか。

【副委員長】 これだけ地域の中に拠点が整備されている施設ですので、原則的な対象者は高齢者としつつも、月に1回程度は地域活動のために場所を貸していただくような取り組みもあっても良いのではないかと、個人的には思います。

【委員】 いきいきサロン等、他の居場所との区別が付きません。先日、市内で、商店街や周辺施設と一緒にイベントを行う機会がありました。その商店街の中には市民社協が推し進める形の居場所があるのですが、当日は老若男女が気軽に寄って、食べたり話したり、歌ったりゲームもしたりと、とても良い雰囲気でした。そのような形の居場所を推進する方が、ニーズの把握や適切な支援につなげるのには良いのかなと思います。

【副委員長】 それでは、市民社協が目指す居場所のあり方について、地域福祉コーディネーターと同じく、もう一度議論を深めるということによろしいのでしょうか。

最後に6番「ご近所同士のつながりづくり」です。いかがでしょうか。

【委員】 地域には、独居高齢者や既存のコミュニティから外れてしまう人もいます。その人たちへの支援という視点も大切ではないでしょうか。

【委員】 前回の活動計画では、「地域での孤立を防ぐ」という取り組み目標がありました。今回の計画でも、それは入れるべきではないでしょうか。「孤立させない」というキーワードが大切です。

【委員】 オートロックマンションについて、建設段階から社協等の職員の方がアプローチする取り組みは賛成です。以前、市内のマンションが建設される際に市民が強く反対したことがありました。その際の危機感のようなものが伝わったのかもしれませんが、管理会社や管理組合が地域とつながることをとても意識していて、その後は反対していた市民の人達も含めて、マンションの敷地内でイベントが行われた例もあります。このことから、建設段階からの働きかけは重要だと思います。

【副委員長】 ありがとうございます。時間もありませんので、ここで終わりたいと思います。冒頭でお話ししましたとおり、他に意見のある方は11月9日までに事務局まで提出をお願いします。

【委員長】 定刻も大幅に過ぎましたが、今回の計画の重要な部分ですので、時間を延長して議論していただきました。ありがとうございます。最後に事務局から何かありますか。

【事務局】 冒頭の説明の補足になりますが、資料4はあくまでも地域懇談会で出された課題を基に作成していますので、この他にも委員の皆さんが計画に載せたほうが良いと考えられるものがありましたら、11月9日までに提出いただければと思います。

【委員長】 それでは、第4回の策定委員会を終わらせていただきます。長時間にわたりありがとうございました。